様式第一

**・ガイドブックを必ず参照の上、記載及び手続を進めること。**

**・本ボックス及びコメントは公表時は削除。**

**「マルチステークホルダー方針」**

当社は、企業経営において、株主にとどまらず、従業員、取引先、顧客、債権者、地域社会をはじめとする多様なステークホルダーとの価値協創が重要となっていることを踏まえ、マルチステークホルダーとの適切な協働に取り組んでまいります。その上で、価値協創や生産性向上によって生み出された収益・成果について、マルチステークホルダーへの適切な分配を行うことが、賃金引上げのモメンタムの維持や経済の持続的発展につながるという観点から、従業員への還元や取引先への配慮が重要であることを踏まえ、以下の取組を進めてまいります。

**記**

**１．従業員への還元（必須記載）**

当社は、経営資源の成長分野への重点的な投入、従業員の能力開発やスキル向上等を通じて、持続的な成長と生産性向上に取り組み、付加価値の最大化に注力します。その上で、生み出した収益・成果に基づいて、「賃金決定の大原則」にのっとり、自社の状況を踏まえた適切な方法による賃金の引上げを行うとともに、それ以外の総合的な処遇改善としても、従業員のエンゲージメント向上や更なる生産性の向上に資するよう、教育訓練等を中心に積極的に取り組むことを通じて、従業員への持続的な還元を目指します。

（個別項目）

具体的には、賃金の引上げについて○○○○○○○○○○○○○に取り組むとともに、教育訓練等について○○○○○○○○○○○○○に取り組んでまいります。

**２．取引先への配慮（必須記載）**

当社はパートナーシップ構築宣言の内容遵守に、引き続き、取り組んでまいります。

なお、パートナーシップ構築宣言の掲載が取りやめとなった場合、マルチステークホルダー方針の公表を自主的に取り下げます。

* パートナーシップ構築宣言のＵＲＬ

【<https://www.biz-partnership.jp/declaration/>○○○○.pdf】

**３．その他のステークホルダーに関する取組（任意記載）**

当社は、○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○に取り組んでまいります。

これらの項目について、取組状況の確認を行いつつ、着実な取組を進めてまいります。

以上

　年　月　日

法人の名称　　　　　　　　　　代表者の役職及び氏名

記載要領（全て削除して使用のこと）

1. 「マルチステークホルダー方針」という件名は変えずに使用すること。
2. 様式中の下線を付した用語は必ず盛り込むこと。ただし、公表時には下線は削除すること。
3. 「柱書」は、記載の文章を参考にしつつ、統合報告書や企業行動指針等における記載を引用・活用することで、可能な限り、新たに文章を追加するなど自社の方針・取組に応じた記載とすること。
4. 「１．従業員への還元」「２．取引先への配慮」「３．その他のステークホルダーに関する取組」という項目名の記載は変えずに使用すること。ただし、公表時には「（必須記載）」「（任意記載）」という記載は削除すること。
5. 「１．従業員への還元（必須記載）」は、前段については、記載の文章を参考にしつつ、統合報告書や企業行動指針等における記載を引用・活用することで、可能な限り、自社の方針・取組に応じた記載とすること。「個別項目」については、「賃金の引上げ」及び「教育訓練等」の項目について、必ず、自社の取組内容を具体的に記載した文章を追加すること。
6. 「２．取引先への配慮（必須記載）」は、パートナーシップ構築宣言のＵＲＬ以外は様式に記載の文言をそのまま使用すること。ＵＲＬは、パートナーシップ構築宣言ポータルサイトに掲載のＵＲＬを文字列で記載すること。
7. 「３．その他のステークホルダーに関する取組（任意記載）」は、その他のステークホルダーに関する取組などがあれば、統合報告書や企業行動指針等における記載を引用・活用することで、可能な限り、自社の取組内容を具体的に記載した文章を記載すること。ただし、「３．その他のステークホルダーに関する取組（任意記載）」自体を記載しない場合は、公表時は項目ごと削除すること。
8. 「　年　月　日」は、マルチステークホルダー方針の公表日を記載すること。マルチステークホルダー方針に記載の内容について更新を行った際は、公表日の下部に更新日及び更新内容を記載すること。
9. 「法人の名称」は、登記簿上の名称を記載すること。

備考（全て削除して使用のこと）

1. この用紙の大きさは、日本産業規格Ａ４とすること。
2. 文字はかい書で、インキ、タイプによる印字等により明確に記入すること。